

NTT DATA「ビジネスケアラーの仕事と介護の両立支援」ナレーション原稿

(NA1)

日本の総人口は、2070年には9,000万人を割り込み、高齢化率は約39%になると推計されています。そこで大きな課題の一つとなっているのが仕事を続けながら家族を介護する「ビジネスケアラー」です。

(NA2)

2030年には、家族介護者の4割がビジネスケアラーになると言われており、その経済損失は、9.1兆円にもなると予想されています。

(NA3)

NTT データでは、社員へのアンケートを実施。

40代では5人に1人がビジネスケアラーであると回答があり、予備軍を含めると6割以上でした。

(Interview1)

実は私自身のビジネスケアラーでして、自分がやっていることを語ることなく、一人で抱えて頑張っているんだなということを、私自身の体験と、それからもう本当にそんな方がたくさんいるんだということがわかって、NTT データ自体がこの社会課題を自分ごととして捉えて解決に挑んでいこうと。

(NA4)

そこで、NTT データでは“ビジネスケアラーのペインを解決する取り組みを、新しく立ち上がったソーシャルデザイン推進室が中心となり、検討を開始しました。

(Interview2)

NTT データのソーシャルデザイン推進室は、社会課題をテーマに新規事業を創出する組織として、2020年の10月に発足をしました。

現在、私どもが取り組んでいる注力テーマとして6つあります。個別の企業さんや行政機関、金融機関さんのシステムを多く作っていますが、もっとこれをつなげる役割というのも今後は担わなければいけないと思っております、それをいわゆるプラットフォームとして事業

化をしていきたい

(NA5)

企業・業界の枠を超え、自立を支えるさまざまなサービス事業者と親を繋ぐことで、ビジネスケアラーが、親のウェルビーイングを叶えながら、無理なく働き続けられる社会を目指し取り組みを開始。ケアラーの悩みに寄り添うサポート機能によって、サポーターを介してビジネスケアラーへ新たな価値を提供します。

(Interview3)

データのデジタル技術力や、あるいは様々な企業様とのリレーション、これらを活用してその価値をつないで融合して、ビジネスケアラー向けの新しい価値に仕立て上げて、そしてそれを企業の仕事と介護の両立施策に紐付けて、多くのビジネスケアラーに届ける。これを構想しています。

(NA6)

ビジネスケアラーの悩みへの解決策の提案や、実行サポートのほか、セコムが提供する見守りサービス「あのね」など、高齢者向けに提供されていたサービスを、「自分に代わって親のサポートをしてくれるサービス」としてビジネスケアラーに提供することで、不安と負担を解消することをめざして検証しています。

(Interview4)

両親のその気持ちの少し晴れやかな部分みたいなものもご提供できているのかなというふうに思っていて嬉しく思っています。
誰もが当たり前のようにそういったそのサービスを使えるような未来が来るといいのかなと思っています。

(Interview5)

介護は本当にまだ人に言えない自分で抱えている世界なので、ムーブメントを起こして、価値観も変えながら仕組みをつくっていく。そういったことを実現をしていければいいなというふうに考えています。

(NA7)

来年度の事業開始をめざして、すでに 6 社と共同検討を進めており、共創サービスのデザイン

やビジネスモデル策定を実施しています。

(Interview6)

近年、社会的なニーズの高まりを受け、より多くの方々を支援するため、更なるサービスの充実と拡大を目指しております。

貴社の迅速な展開力と事業拡大のビジョンに共感し、強力な連携を通じて新たな価値を生み出していくことができると確信しております。

(NA8)

NTT データソーシャルデザイン推進室がめざす社会とは。。。

(Interview7)

今後はこういった方々と共創して、ともに新しいビジネスをつくっていく、あるいはサービスを使ってこれは社会課題の解決にどれぐらい貢献するといったところをしっかりと出して、仲間をふやす、あるいはユーザーをふやしていく。

(Interview8)

育児と仕事の両立と同じように、介護と仕事の両立が当たり前になる社会、お互い様だよねっていうふうに言ってもらえる。

そういった社会をまずめざしていきたいと。

(NA9)

私たち NTT データソーシャルデザイン推進室は、生活者視点で社会課題を解決し、生活者のウェルビーイングを実現する「Smarter Society」をめざしていきます。